

99) *Macrothamnium longirostre* Dix. l. c. 19. (Fig. 65—9~11)

遠江秋葉山産の標本(笛岡 No. 4748)に基づく種である。本種が設けられた根拠としては *M. macrocarpum* や *M. submacrocarpum* に酷似するが、1) 葉隅が流れて細胞が疎であり、2) 葉細胞の上隅が隆起し、3) 蕊蓋は長く斜に嘴出するというのである。1) の点は標本についてみれば、さほど強調されるほどのものでなく、2) は *M. macrocarpum* などには普通にあることである。3) の点は、本種を設定する最も有力な根拠であるが、たまたま、これに混生している *Acanthocladium japonicum* の胞子体が取り上げられて記載されているといふ妙なことになつてゐる。即ち、蒴柄は約 22 mm 長、蒴胞 2.2×1 mm の大きさ、蒴蓋は円錐状の基部から斜に長く嘴出して約 1.5 mm の高さがある。*Macrothamnium* の蒴蓋が長く嘴出するといふなら著しいことであろうが、*Acanthocladium* の種にしてみれば当然のことである。従つて、*M. longirostre* の学名は、配偶体は *Macrothamnium macrocarpum* Fleisch. に、胞子体は *Acanthocladium japonicum* Broth. et Par. のものに与えられた名称ということになる。しかし、この包の標本が遠江で採集されたものなら、熱帯アジア方面にある *M. macrocarpum* が日本本土にもあることになつて、分布上興味深いことといえる。

## ○日本に於けるヤラッパの栽培 (津山 尚) Takasi TUYAMA: So-called Jalap cultivated in Japan.

*Ipomoea Purga* は根部が塊根をなし、所謂ヤラッパ根の原植物として有名である。この植物はメキシコ原産であるが印度等でも栽培が成功した。日本にもこれは輸入され栽培されたことになつてゐるが、小生はこれが眞のそれであつたことを疑つてゐる。いつか東大生薬学教室で故藤田直市教授の御好意で同室所蔵のヤラッパ根とされる標本を拝見したことがあるが、これは明かにオホハマアサガホ、*Stictocardia campanulata* House であつた。このものはその属名の示す様に心臓形の葉の裏に微細な腺点を散布しているものである。この標本は下山順一郎先生のは好薬園から出たもの由であつたが、朝比奈泰彦先生によると同園は東京都下十条にあり、500 坪位の広さを有し、農夫飯田常次郎氏によつて管理されていた由で、明治 38~9 年頃から初まつたものであるそりである。朝比奈先生によると所謂ヤラッパの種子は独乙 Erfurt 在の種苗会社から輸入されたものではないかとのことである。小笠原島、父島清瀬の林業試験場出張所でも又同様にオホハマアサガホをヤラッパと誤つて栽培し、盛んに種子で繁殖していた。そして当時の同所の管理者岡部正義氏も根に塊根が出来ないことをいぶかつていられた。又同じものは父島南部の海岸では岡部氏の知るより前から自生状態にあつたと言うが、出張所のものは小石川植物園から移入したものとのことであつた。眞のヤラッパは極稀にしか蒴果を結ばぬものとされているが輸入した種子そのものが間違つてゐたに違ひない。